【対馬歴史研究センター】

対馬歴史研究センター事業（87，213千円）

対馬島内の歴史的文化遺産を収蔵し、教育、文化の振興に資することを目的とした調査研究を進めており、収蔵品の中核である対馬藩宗家の藩庁文書である「対馬宗家文書」は、国内でも最大規模の史料群であり、５１，９４６点が重要文化財に指定されている。

また、江戸時代の朝鮮関係史料が多数存在することから、日韓交流の歴史を伝える極めて貴重な史料として国内外から注目されているところである。

（１）対馬歴史研究センターの管理運営

「対馬宗家文書」をはじめとして、対馬の歴史に関する研究を行うとともに、国内外の大学等の研究機関と連携を図りながら対馬に関する資料収集や調査を進める。また、対馬市立対馬博物館と連携しながら展示等に協力するほか、全国の研究者の受入れを行う。

（２）宗家文書保存・整理事業

重要文化財「対馬宗家関係資料」のうち、損傷が軽度なものは、当センターにおいて文化庁などの指導を受けながら、文書等の折れやしわ伸ばし、ほこりを除去するなど維持管理の範囲で日常的に保存行為を行う。

（３）宗家文書修復事業

重要文化財「対馬宗家関係資料」の中でも、損傷の著しいものや修理に高度な技術を要するものについては、文化庁が認めた外部の専門機関に依頼して計画的に修理を行う。

資料閲覧室

宗家文書の保存・整理作業の様子

宗家文書修復事業修理作業の様子

左から「解体」１枚ずつ丁寧に分離、「剥落（はくらく）止め」資料が分離しないよう接着、「漉嵌（すきばめ）」失われた場所に紙をとかした繊維で埋める、「仕立て」本来の状態に復元